



今月のことば 令和3年(2021)7月 <No.179>

一年で人生が終わるとしたら

みなさんに質問です。もし、あと一年で人生が終わるとしたら、あなたは、旅行に行きたいですか？家族と楽しいひとときをすごしたいですか？もっと仕事をしたいですか？趣味に時間を使いたいですか？おいしいものが食べたいですか？ほしかったものを買うのでしょうか？
…なぜこのような質問をしたかという、人生に締め切りを設けることで、何がやりたいか、何が大切かが明確になるからです。

『もしあと一年で人生が終わるとしたら？』小澤竹俊 著 より

長年ホスピス医療に携わり、3500人を超える患者さんたちを見送ってきた小澤竹俊医師には、一つの気づきがありました。それは「死」を前にすると、人は必ず自分の人生を振り返るといふことです。そして、人生で大切なものは何かを考えていくことによって、多くの方が「良い人生だった」と納得してこの世を去っていくそうです。

だからこそ小澤医師は「あと一年で人生が終わるしたら？」という問いを、元気なうちから考える機会を持って欲しいといひます。大切なのは、やりたいことの中身ではなく、「本当に大切なものは何か」を自問自答する過程です。



人生の意味を見つけるのは、そう簡単ではありません。その理由は、私たちが人生の意味を「自分のしたことが、誰か(あるいは社会)の役に立っているかどうか」と結びつけてしまいがちの点にあります。…しかし、誰かに役に立つことだけを「意味のあること」ととらえる考え方には限界があります。その理屈でいくと「自分は誰の役にも立っていない」と思った瞬間、自分の人生の意味や、自分が存在している意味を見失ってしまうからです。…

社会の中で元気に働いているうちは、私たちはわかりやすいミッション、わかりやすい価値や意味ばかりに目を向けがちですが、多くの人は「人生の終わり」という大きな苦しみが近づいてくると、価値観ががらりと変わり、それまでわからなかった人生の意味や、自分が生きてきた理由、与えられたミッションに気づきます。…

「人生があと一年で終わる」と考えれば、それまでの価値観が崩れ、自分を縛っていた固定観念やしがらみから解き放たれ、見える景色が変わってきます。



本願寺中興の祖・蓮如上人のお手紙には、「朝には紅顔あって、夕には白骨となれる身なり」という有名な一節があります。だからこそ、「お念仏申せ」と上人はおっしゃいます。その意味は、「いつ死ぬかわからない身です。あなたにとって本当に大切なものは何か、しっかり考えなさい。そのことを阿弥陀さまは、お念仏を通じてあなたに呼びかけておられます」ということだと、私はいただいています。

慧日山 真光寺

